

シノ且ツ保証昏ヲ差出サシノタル上昏記ニ於
テ之ヲ登記スヘキモノトス
所有權若クハ所有權回復ノ訴訟ニ於テ差押ハ
タル財産ハ保証昏若クハ其他ノ方法ヲ以テ其
管守ヲ解クコトヲ得ス但シ相當ノ理由ヲ証明シ
且ツ相手方買係者ニ正当ノ通知ヲ為シ而シテ原
被一方ヨリ歎願昏ヲ差出シタル時ハ格別ナリ
トス

第廿四條

凡ソ所有權ニ関スル訴訟ニ於テ原被一方ニ對
シテ判決ヲ下シタル後他ノ一方ノ者裁判所ニ
向テ所有權回復ニ関スル処分ヲ求メ而シテ相當
ノ保証ヲ提出シタル時ハ先ツ評價ヲ行フカ或

ハ所有權回復ノ訴訟ニ於テ相手方勝利ヲ得タ
ル時ハ損傷ナク物件ヲ還付シ且ツ郡裁判所又
上訴ノ場合ニ於テハ上訴裁判所ノ判決ト等ク
諸般ノ命令及ヒ裁決ヲ遵守スヘキ旨ヲ証明シ
タル証昏ヲ差出サシノタル上ニアラサレハ其
訴訟物件ヲ利益者ニ下付スルコトヲ得サルモノ
トス

第廿五條

自認提供ハ訴訟ヲ起シタルノミニテ未タ其答
辯或ハ弁駁ヲ為サレバ已前裁判所ニ於テ其判
決又ハ命令ヲ遵守セシマル爲メ領收シタル時
ニアラサレハ其答弁ヲ免カレ或ハ費用年償ノ
責メヲ免カレ、コトヲ得ス但シ訴訟ヲ起シタル

後直チニ前上ノ提供ヲ爲シタル時ト虽凡當時
現ニ生シタル費用ハ之ヲ償フヘキモノトス

第廿六條

第三ノ人ハ訴訟本案ニ就キ現ニ利害ヲ有スル
ノ確証アルニアラサレハ其訴訟ニ參典スル
ヲ得ス但シ此確証ハ即チ原告ノ誓詞ヲ以テ定
ムルト虽凡年論若シハ簡易訴状ニ依リ原告ニ
對シ反証ヲ呈シタルハ格別ナリトス

第廿七條

凡ソ法律又ハ事實上ノ答弁ハ通常海上民事ノ
訴訟ニ用ユル処ノ異議ノ申立昏或ハ其他特別
ノ年論昏ヲ用ヒス單ニ答弁昏或ハ反對申立昏
ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノトス但シ訴訟關係者

又ハ令状ノ正否或ハ其他訴訟取消ノ申立ニ對
スル異議申立昏ノ如キハ格別ナリトス

第廿八條

合衆國ノ名義ヲ以テ出スヘキ答弁昏又ハ反對
申立昏ハ宣誓ヲ用ヒス郡代官人ヲシテ之ヲ差
出サシメ而シテ之ニ對シ不完全ノ故障ヲ爲スヲ
許サス

第廿九條

被告人ハ令状復命日ニ於テ未ク答弁々駁ヲ或
シカレ已前原告訴状ノ文章多岐兩意ニ涉リ不
明瞭ニシテ到底辨論スルコトヲ得サル旨ヲ記載
シタル異議申立昏ヲ差出スコトヲ得ハシ
此場合ニ當リ裁判所ニ於テ果シテ之ヲ不完全

ト判決シ而ノ其後二日巳内ニ原告人ニ於テ之
ヲ更正セサルハ其訴状ヲ却下シ而ノ其費用
ヲ擔當セシムヘシ
此ノ如キ異議ノ申立者ニ関スル處分手續ハ總
テ答弁書或ハ其他ノ辯論各ニ對スル異議ノ申
立ト同一ナリトス

第四拾條

原告人ハ被告ヨリ答弁書又ハ反對申立書ヲ差
出シタル四日以内ニ更ニ其答弁書又ハ反對申
立各ニ對スル異議ノ申立書ヲ差出シ而ノ其不
備不適當或ハ無効ナル所以ヲ示明スルヲ得
ヘシ但シ右申立各ハ書記局ニ備ヘタル用紙ヲ
用ヒ而シ簡短ニ其異議ヲ唱フル條件ヲ記載ス

可シ

此場合ニ於テ被告人若シ右申立ニ服從シタル
ハ其旨ヲ原告人ニ通知シ或ハ不服ナルハ
之ヲ審問ニ付スルヲ求メ而シ其審問期日ヨ
リ四日巳前ニ其旨ヲ通知スヘシ

第四拾一條

若シ又一方ノ者不全ノ異議タルノ申立ニ服シ
タルハ其旨ヲ通知シタル後四日以内ニ更ニ
答弁スヘキモノトス
若シ審問ノ上右申立ヲ認可シタルハ裁判所
ノ指定スル期日以内ニ更ニ答弁スヘシ
若シ右審問ヲ正當ニ遂ケサレカ又ハ正當ナル
答弁各ヲ差出サレル場合ニ於テハ被告人ノ差

出シタル答辯各又ハ反對申立各ハ無効トシ而
ノ懈怠者タルノ登記ヲ受クヘシ

第四十二條

不適當ナル申立ニ服シ或ハ之ヲ裁判所ニ於テ
認可シ或ハ被告人正當ノ答弁ヲ遂ケザルハ
書記ハ答弁書又ハ反對申立各中ヨリ右異議ノ
箇条ヲ除却スヘシ

第四十三條

裁判所ノ訴訟ヲ受理シタル場合ニ當リ各自ノ請
求又ハ答弁各ナ同轍ニ出テタルハ裁判所ハ
其意見ニ依リ令狀ヲ發シ一人ニ對スル判決ヲ
以テ自他ノ關係者ヲ服後セシメ而シテ依令其總
關係者ニ於テ皆同等ノ利益ヲ有セザル場合ト

虽ニ該判決ニ服シタルモノトシテ之ヲ始末書
ニ登記ス可シ

第四十四條

允ソ証拠認取ニ突スル命令書ヲ求ムル場合ニ
於テハ反對申立各又ハ答弁各ヲ差出シタル日
ヨリ四日以内ニ之ヲ求ムヘキモノトス
反對申
立又ハ答弁ニ對シ異議ノ申立アリタル場合ニ
限ル

然レモ若シ右命令各ヲ求メタル者ヨリ他ノ一
方ノ者ニ對シ質問ヲ起シタル日ハ其質問ニ應
シタル答弁各ヲ差出シタル時ヨリ四日以内ニ
之ヲ求ムヘキモノトス否ラサレハ右命令各ハ
審理手續ヲ中止スルノ効力ナキモノトス但シ

相当ノ事由アルハ出訴ノ後ニシテ未タ并論
終決ニ至ラサル以前或ハ懈怠ノ言渡若クハ豫
審ノ裁決アリタル後何時ヲ論セス右令状及ヒ
審理手續ノ中止ヲ求ムルヲ得ヘシ

第四十五條

右命令昏ノ執行ヲ求メタル誓昏ニハ証人ノ氏
名ト共ニ証明ヲ請フヘキ事實及ヒ証拠ヲ認取
シ命令昏ヲ復命スルニ相当ト思量スル処ノ日
限ヲ記載スヘキモノトス
特別ノ事由ヲ証明スルハ相手方関係者ニ通
知ヲ為シタル上訴訟関係者ニアラサレ者ノ審
問ヲ為スヘキ命令ヲ請フヲ得ヘシ

第四十六條

若シ相手方ヨリ書面ヲ以テ右誓昏中ニ記載シ
タル事由ニ對シ証拠ヲ陳述スヘキ旨ヲ認可シ
タルハ其審理ヲ中止スルヲ許サズ但シ右
誓書ハ右認可昏ト併セテ審問ノ席ニ於テ朗讀
シ且ツ指名シタル証人ヲシテ此等ノ事由ヲ証
明セシメタルト同一ノ効アルモノトス

第四十七條

右命令書ノ請求ハ裁判所開廷中ナレバ公廷
若シ開廷中ナルハ裁判所外ニ於テ判事ノ面
前ニ之ヲ報告提起スヘキモノトス此場合ニ於
テハ一名ノ委員ヲ選任セラルヘシ但シ特別ノ
事由アリテ更ラニ増負ヲ要スルハ格別ナリ
トス

又委員撰任ノ費用ハ双方ノ関係者ニ於テ増負
ヲ要スル場合ノ外一名以上ノ費用ヲ徴収スル
トテ許サス

第四十八條

對審吟味ニ関スル質問ニ就キ関係者双方ニ於
テ一致セザルニ於テハ判事ノ認可ヲ受ル爲メ
之ヲ判事ニ差出スヘシ此場合ニ於テハ其異議
者ヨリ一日已前ニ其旨ヲ通知スヘキモノトス

第四十九條

反對質問書ハ原質問書ヲ受取リ或ハ之ヲ承認
シタル日ヨリ四日已内ニ送致スヘキモノトス
若シ其送致ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ判事
ニ對シ前上ノ通知ヲ爲サザルハ其送致ヲ受

ケタル質問書ニ對シ異議ナキモノト看做サレ
ヘシ

第五十條

關係者ニ於テ承認シ或ハ判事ノ決定シタル實
問書ハ証拠認取ニ関スル命令書ニ附添スヘキ
モノトス

第五十一條

書記ニ於テ記名シタル命令書ノ執行及ヒ復命
ニ関スル命令書ハ之ヲ右命令書ニ附添ス可シ
右命令書又ハ其他ノ方法ニ依リ爲シタル証人
申立書ハ之ヲ録取シタル後直ニ登記ニ差出
レ而シテ裁判所ノ開閉期限ニ拘ハラス登記局ニ
於テ右命令書ノ復命アリタル上之ヲ整頓スヘ

ニ但シ之ヲ差出シタル者ヨリ相手方代官人
對シ其旨ヲ通知スヘキモノトス
又右申立各ヲ録取シ或ハ命令各ヲ復命シタル
方法ニ関スル諸般ノ異議ハ之ヲ爲シタル日ヨ
リ四日以内ニ各面ヲ以テ其旨ヲ申出テタル日
ニアラサレハ其効ナキモノトス但シ判事ニ於
テ延期シタルルハ格別ナリトス

第五十二條

人民相互ノ訴訟ニ於テ各關係者ハ命令書又ハ
申立書ヲ書記ニ交付シタル後何時ヲ問ハス恰
モ陶廷中特別ニ陶廷スヘキ命令ヲ下スト同一
ナル命令ヲ得テ裁判所ヲ開廷シ而シテ右申立各
ノ謄本ヲ受授スヘキ求メヲカスルヲ得ヘシ

第五十三條

合衆國ヲ以テ訴訟關係者ト爲スヘキ巡捕事件
ニ関スル訴訟ニ於テ前條ノ命令アリタルルハ
其關係者双方ノ代官人ノ認可各又ハ裁判所ニ
差出シタル歎願書面ニ之レヲ記入スヘキモノ
トス

第五十四條

前上ノ命令書ヲ發シ或ハ申立書ヲ開封スレト
雖モ他日審問ノ席ニ於テ証據ノ正否ヲ論破ス
ルノ妨害トナルルヲアルヘシ

第五十五條

申立各若クハ命令各ニ依リ訊問ヲ受テタル証
人ノ陳述ノ正否ニ異スル異議ノ申立各ハ書記

局ニ於テ前上ノ命令書若クハ申立書ヲ公告シ
而シテ異議ヲ爲ス可キ通知ヲ與ヘタル後四日以
内ニ之ヲ差出スヘキモノトス

前上ノ場合ニ於テ証人申立各ヲ辨駁シ或ハ維
持ス可キ証據ハ審問ノ席ニ於テ關係者双方ニ
於テ之ヲ申立ルヲ得ヘシ而シテ主タル証據ヲ
録取スルト同一ノ方法ニ依テ之ヲ録取スヘシ

第五十六條

當裁判所ニ於テ用ユヘキ參考申立各ハ委員或
ハ合衆國裁判所ニ於テ用ユヘキ仮申立各ヲ録
取スル爲メ議院決議法ニ從ヒ命任シタル官吏
ヲシテ之ヲ録取セシムルヲ得ヘシ但シ此場
合ニ於テハ別段判事ノ下名アルヲ必要トス

第五十七條

各訴訟關係者ノ公廷ニ於テ申立テタル口頭証
據ヲ議院ノ決議法ニ基キ各記ヲシテ録取セシ
メシトテ求メタルハ恰モ慣例裁判上陪審吟
味ノ場合ト同一ノ方法ニ依リ之ヲ録取セシム
ヘキモノトス

第五十八條

凡ソ判事ノ筆記ハ訴訟關係者双方ニ於テ承諾
シタルハ恰モ書記ノ筆記ト同一ノ効アルモノ
トス

第五十九條

訴訟關係者ニ於テ証據書類ヲ更ニ増減交換セ
シト欲スルハ証據ヲ出シ終リタル後五日以

内ニ相手方代言人ニ對シ其更正各類ヲ送達シ
其後二日以内ニ相手方代言人ニ於テ之ヲ認メ
或ハ更ニ訂正ヲ申立テサレハ其書類ハ正実
ノ証拠各類ト認メラレハシ但シ前上ノ筆記モ
亦之レト等ク更正スレテ得ヘキモノトス

第六十條

前上更正各類ニ對シ更ニ訂正ノ申立ヲ爲シ之
ニ同意セサルハ更正各類及ヒ訂正各ト俱ニ
之ヲ判事ニ差出スヘシ判事ハ其事實ノ如何ヲ
判定シ而シテ其判定ノ各類ハ即チ正実ノ証拠各
類ト認定セラレハキモノトス

第六十一條

各訴訟關係者ハ通常若クハ特別開廷中書記若
クハ委員ノ報告各ヲ差出シタル場合ニ於テ二
日已前ニ通知ヲ行フハ其報告書ニ對シ異議
ノ申立ヲ爲シ而シテ之レヲ審問ヲ受クルヲ得
可シ否ヲサレハ各記ニ於テ次回ノ審問名簿ニ
之ヲ登記スヘキモノトス

第六十二條

委審報告各ヲ受領シタル場合ニ於テハ情願ニ
依リ別段通知法ヲ用ヒスシテ其確認ノ命令ヲ
登記スレテ得ヘシ但シ裁判所ヨリ別段命令
ヲ下シ或ハ報告各ニ對シ異議ノ申立アリタル
ハハ格別ナリトス

又若シ右確認ノ通知ヲ爲シタル後四日以内ニ
異議ノ申立各ヲ提出セサルハ最終ノ判決ヲ

登記スルヲ得ハシ

第六十三條

凡ソ訴訟上ノ後見人ハ相當ノ事由ヲ記載シ而
ノ誓詞ヲ以テ保証シタル請求書ヲ差出シタル
時ニアラサレハ之ヲ命任スルヲ得サルモノ
トス

右後見人ハ後見人其訴訟ニ關係ヲ有シタル時
ト等ノ費用其他ニ要スル保証昏ヲ差出スヘシ

第六十四條

凡ソ幼者ハ親友ヲシテ訴訟スルヲ得ハシ但
シ此場合ニ於テハ其者ヲシテ恰モ其幼者丁年
ノ場合ト同一ノ方法ニ從ヒ費用ニ要スル保証
ヲ差出サレシノ而シテ之ヲ弁償スルノ責メニ任ス

ルモノトス

第六十五條

凡ソ訴訟ハ裁判所ノ明許アルニ於テハ貧民許
訟ノ方法ニ從ヒ之ヲ為シ或ハ答弁スルヲ得
可シ此場合ニ於テハ費用ニ要スル諸般ノ保証
若クハ責任ヲ受クルモノトス

通常ノ場合ト雖モ裁判所ニ於テ關係者ヲ保証
ノ責メニ任シ能ハサルノ確証ヲ認ル時ハ其時
ノ形状ニ從ヒ其保証ノ責任ヲ減輕変更スルヲ
得ヘシ

第六十六條

凡ソ判決ヲ下シタル場合ニ於テ敗訴者ノ代言
人ニ其判決ヲ通知シタル後十日以内ニ上訴シ

以テ前判決ノ処分ヲ停止セスシテ之ヲ認可シ
タルハ裁判所ハ無論令状ヲ發シテ其訴訟関
係者ノ保証人ヲシテ其保証ノ義務ヲ尽サレノ
或ハ四日以内ニ其保証各ニ從ヒ其者又ハ其者
ノ土地財産ニ對シ執行状ヲ發スヘカラサルノ
理由ヲ證明セシムヘキモノトス
若シ此場合ニ當リ右代言人相當ノ命令ヲ受ケ
而ノ相當ノ事由ヲ證明セサルハ其保証ニ関
スル簡易裁判ヲ行ヒ而ノ其執行状ヲ發ス可キ
モノトス
然レモ訴訟本人ニ於テ本案ノ判決ヲ執行シ而
ノ諸般ノ費用ヲ弁償シタルハ保証人ハ其義
務ヲ免カル可キモノトス

第六十七條

元々特別敷願ニ係ル審問判決及ヒ法律上ノ疑
義ニ關スル辨論及ヒ証據認定或ハ海上収税法
ニ係ル訴訟ノ審問及ヒ其他諸般ノ判決ヲ行フ
爲メ判事ノ認可アルハ何時ヲ問ハス(毎週水
曜日ヲ除キ)特別ニ裁判所ヲ開クヲ得ヘシ

第六十八條

凡ソ訴訟関係者ノ死亡若クハ訴訟ニ関スル利
益ノ交換ニ因テ弁論又ハ審理其他ノ處分ヲ行
フ能ハサル場合ニ於テ新ナル関係者ヲ必要ト
スルハ其党輩ノ請願又ハ相手方ノ請願ニ依
リ其者ヲシテ関係者タラシムルヲ得ヘシ

第六十九條

前上ノ場合ニ於テハ本訴ノ顛末其審理手續及
ヒ其日附及ヒ何某ヲ新ニ關係者タラシムヘキ
ノ求メヲ簡短ニ願書面ニ記載スヘキモノトス

第七十條

右願書ノ謄本及ヒ之ヲ出シタル通知狀ヲ送達
シタル上ハ右新ナル關係者ニ對シ相當ノ審理
手續ヲ行フヘキ令狀ヲ求ムルヲ得ヘキモノ
トス

此場合ニ於テハ最初ヨリ其訴訟關係者タルト
同一ノ保証書ヲ差出サシムヘシ

第七十一條

凡ソ訴訟關係者ハ裁判所ノ判決若クハ命令ニ
對シ不服ナルモハ上訴スルヲ得ヘシ但シ更

ニ裁判所ニ上訴スルヲ許サスシテ直チニ其
判決ヲ執行スヘキ場合ハ格別ナリトス

第七十二條

何人ト雖モ判決アリタルヨリ十日以内ニ上訴
スルヲ得但シ十日ヲ經可スル迄ハ其判決ヲ
行フヲ得サレモノトス

若シ各記及ヒ相手方代言人ニ對シ上訴ヲ為ス
ヘキ簡短ナル通知狀ヲ送達シタル片ハ別段裁
判所ニ對シ上訴ノ允可ヲ求メサルモ猶上訴ノ
効アルモノトス

第七十三條

上訴ノ登記ヲ受ケタル片ハ上訴人ハ其後十日
以内ニ損害賠償及ヒ費用ニ突スル保証ヲ出ス

可シ若シ十日以内ニ之ヲ出サ、ルキハ其上訴
ノ起ラサルモ、ト看做シテ其判決ヲ執行スヘ
キモノトス但シ裁判所ニ於テ猶豫ノ期限ヲ共
ヘシ、ルキハ格別ナリトス

第七十四條

上訴人ハ保証ヲ出ス四日以前ニ其保証人ト為
ルヘキ者ノ氏名住所及ヒ職業及ヒ保証ヲ出ス
時日場所トテ相手方本人若クハ其代言人ニ通
知スヘシ

第七十五條

凡ソ上訴ノ登記ヲ受ケタル上訴人ハ其登記ヲ
受ケタル後三十日以内ニ其昏類ヲ巡回裁判所
ニ送致スヘキ求メテ爲ス、トテ得ヘシ

若シ此求メテ爲サ、ルキハ其上訴ノ起ラサル
モノト看做シテ其判決ノ執行ヲ爲スヘキモノ
トス但シ上訴人ノ特別請願ニ依リ裁判所ニ於
テ別段ノ命令ヲ下シタルキハ格別ナリトス

第七十六條

凡ソ上訴ノ場合ニ於テハ再審ノ訴状ヲ受理ス
ル、トテ得ス但シ判決ノ以前又ハ執行状ノ復命
以前ニ之ヲ差出シタルキハ格別ナリトス

第七十七條

凡ソ裁判所ノ令状ニ依リ「ヤル」ニ於テ金
額ヲ領シタルキハ其受取ルヘキ謝金目録及ヒ
其金額ヲ領収シタル時日ヲ記シタル昏面ト共
ニ之ヲ書記ハ納付スヘシ昏記之ヲ領収シタル

上ハ右金額中ヨリ「マルシヤル」ノ謝金ヲ支出ス
可シ
又當裁判所ノ命令若クハ判決ニ從ヒ公賣シタ
ル物件ノ計算書ハ之ヲ行フタル執行狀又ハ其
他ノ令狀ト共ニ「マルシヤル」ヨリ書記局ニ差出
ス可キモノトス

第七十八條

當裁判所ノ命令若クハ判決ニ從ヒ納付スヘキ
諸般ノ費用及ヒ雜費計算屆ハ其納付已前昏記
之ヲ計算筆記スヘキモノトス若シ又裁判所ノ
官吏外ニ係ル謝金等ヲ計算昏中ニ掲ケタル片
ハ相當ノ証拠若クハ（証拠ヲ失ヒタル片）「誓昏
ヲ差出スヘシ

又若シ四日以前ニ關係者各人ニ通知セシテ
前上ノ費用ヲ課シタル片ハ其通知ヲ受ケザル
關係者ノ請願及ヒ其徴収ヲ求メタル者ノ費用
ヲ以テ更ニ其徴収ヲ變更スルコトアルヘシ

第七十九條

凡ソ昏記ハ費用ヲ賦課シ或ハ証明シ及ヒ判文
ヲ記シ及ヒ判決認可書ヲ領収シ及ヒ諸般ノ誓
書及ヒ法律上公廷ニ於テ認取スルコトヲ要セザ
ル場合ニ於テ公廷外ニ於テ恰モ公廷ト等ク宣
誓ヲ認ムルノ職權アルモノトス

第八十條

當裁判所ノ屬吏或ハ書記長ノ定員ハ二名以下
トス而シテ昏記局ノ命任昏ヲ以テ之ヲ撰任シ且

ツ其職權ハ判文ヲ記シ及ヒ書記主管外ノ費用
ヲ賦課徴収及ヒ証明ニ及ヒ裁判所ノ印章ヲ鈐
シ及ヒ裁判所ノ記録ヲ謄寫スル場合ヲ除キ各
記ニ代テ諸般ノ昏類ヲ記シ及ヒ裁判所ノ命令
若クハ規則上昏記ニ屬スル諸般ノ事務ヲ処理
スルノ任アルモノトス但シ成法上特別ニ書記
ヲシテ処理スルヲ定メタル場合ハ格別ナリ
トス

第八十一條

書記ハ當裁判所ニ於テ合衆國ノ便益ノ為メ下
シタル判決ニ就キ郡代官人ヨリ差出スヘキ裁
判認可昏ヲ筆記スヘキ任アルモノトス

第八十二條

合衆國巡回裁判所或ハ郡裁判所ノ代官人及ヒ
代官人及ヒ本州ノ最上裁判所代官人ハ合衆國
ノ憲法及ヒ法律ニ依リ宣誓ノ上當裁判所ノ代
官人タルヲ得ヘシ
然レモ裁判所附屬ノ代官人ヨリ請願スルニア
ラザレハ之ヲ許サズモノトス

第八十三條

如何ナル訴訟ト虽モ事件簿ニ記入スルニハ審
問通知昏若クハ弁論筆記ヲ要セサルモノトス
海上事件簿ハ海上事件審問期限中昏記ニ於テ
之ヲ擔當シ而シテ頻次之ニ登記スヘキモノトス
又右簿冊ニ登記シタル昏ヲ其開廷ヨリ少クモ
四日以前ニ其番号及ヒ審問ノ期日及ヒ場所ト

俱ニ代官人ニ通知スヘキモノトス但シ其審問
通知各ノ送達ニ係ル証各ハ書記ノ証各ヲ添ヘ
テ差出ス可シ

右通知各ニ記載シタル期日ヲ以テ訴訟事件ヲ
審問シ而シテ若シ當日出廷セサル者アルハ右
通知各送達ノ証各ヲ出ス時ニ限り更ニ通知ヲ
要セス懈怠ノ言渡ヲ受クヘキモノトス

第八十四條

訴訟関係者ノ承諾或ハ裁判所ノ命令アルニ於
テハ更ニ裁判所ノ命令アル迄訴訟事件ヲ簿冊
ヨリ除クヲ得ヘシ

第八十五條

事件簿ヲ備ヘサル場合ニ於テハ代官人ヨリ他

ノ一方ハ二日巳前ニ通知ヲ遂クルハ裁判所
ノ指定シタル期日ヲ以テ之レカ審問ヲ遂クル
ヲ得ヘシ

第八十六條

アルシヤルニ於テ保釈ヲ許シタルハ其証各
ヲ裁判所ヘ差出スヘシ而シテ之ニ差出シ且ツ正
當ニ任セラレタル各記或ハ委員ニ於テ証人ヲ
認可シタル上ハ「マルシヤル」ニ於テ被告人出廷
ノ責任ヲ免レシメタルモノト看做サルヘシ
又証人ノ認否ニ就キ各記又ハ委員ノ判決ニ對
シ不服ナルハ直ニ上訴スヘシ此場
合ニ於テハ判事ノ判決アルマテ証人ノ認否ニ
関スル各記又ハ委員ノ判決ハ完全ナラサルモ

ノト者做サルヘシ

司
方
書

司
方
書



